

7. マルチメディア利用の支援体制

これまでおもにインフラの整備状況や実際の利用状況についてみてきた。インターネットの導入とID付与率の増大、コンピュータ環境の整備など、インフラはかなり整ってきたとみてよからう。次に、こうしたインフラの活用をどのように支援しているのかといったマルチメディア利用の支援体制についてみてみよう。本調査では、過去2年間と同様、全学的にマルチメディアの利用の問題を扱う委員会やマルチメディアの利用促進のための支援センターの設置状況や、支援の現状についてきた。

マルチメディア利用に関する全学レベルの委員会組織は、高等専門学校の76%、4年制大学の68.4%、短期大学の55.7%に設けられている。また、マルチメディア利用のための支援センターは高等専門学校の70%と、4年制大学の58.5%、短期大学の32.8%に設けられている（表7-1）。いずれについても、ここ3年の間に設置する機関が増えてはいるが、逆に設置を予定している機関が減少しており、今後こうした組織やセンターを設置する機関が増大していくとは考えにくい。ここ数年の間に、こうした全学的な委員会を設置し、全学を挙げてIT化を推進していこうとする機関とそうではない機関とがはっきりしてきたといえるのではないだろうか。

表7-1. 支援センターや全学委員会の設置

(%)

		4年制大学				短大	高専
		小計	国立	公立	私立		
委 員 会	設置している	68.4	75.9	71.8	66.1	55.7	76.0
	設置を予定している	5.7	7.6	2.6	5.6	4.3	6.0
	設置する予定はない	25.4	16.5	25.6	27.6	39.0	16.0
支 援 センター	設置している	58.5	69.6	25.6	59.7	32.8	70.0
	設置を予定している	5.5	11.4	2.6	4.4	5.3	6.0
	設置する予定はない	35.8	19.0	71.8	35.5	61.0	24.0

次に、こうした委員会における過去1年間の審議事項についてみてみよう（表7-2）。委員会でもよく審議されているのは、「ネットワーク・セキュリティ」の問題である。「よく審議する」に「時々審議する」を加えると機関の種別、設置者別に関わらず、8割以上の委員会において審議されている。次いで「機器・設備の選定」が多くやはり8割程度の機関の委員会において審議されている。一方、あまり審議されていないのが、「マルチメディアの遠隔教育利用の問題」と「マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメント」、「知的所有権処理の問題」であり、いずれも「よく審議する」機関の割合は6%程度、「時々審議する」を加えても3割程度でしかない。こうした問題については、マルチメディアを実際の教育に広く利用しようとしたときに初めて問題が浮上し、審議の対象になってくることが予想される。マルチメディアの教育利用が進むにつれてこうした審議事項も今後重要性を帯びてくるだろうが、問題が浮上するほどにはまだ利用されていないということのあらわれでもあろう。

表 7-2. 委員会における審議内容（よく審議する+ときどき審議する）（％）

	4 年制大学				短大	高専	総計
	国立	公立	私立	小計			
機器・設備の選定	61.7	71.4	82.9	77.6	77.2	89.5	78.3
マルチメディア関連カリキュラムの問題	33.3	17.9	42.7	38.5	44.4	42.1	40.8
マルチメディア支援センターの構築・改革	52.5	21.4	44.1	43.6	36.1	42.1	40.9
マルチメディア利用の将来計画の策定	74.6	42.9	72.0	69.8	65.6	71.1	68.4
ネットワーク・セキュリティの問題	76.7	100.0	85.8	85.3	81.7	86.8	84.1
マルチメディア利用に関するFD	28.8	14.3	33.2	30.5	29.4	26.3	29.8
マルチメディアの遠隔教育利用の問題	55.9	32.1	35.5	39.3	22.2	18.4	31.8
知的所有権処理の問題	28.8	25.0	39.8	36.2	28.9	15.8	32.2

一方、支援センターの業務内容についてはどうだろうか（表 7-3）。「コンピュータ室の開放・管理」と、「ネットワークの管理」はいずれの機関においても 7 割以上で「積極的に」行われている。次によく行われているのが「メールアドレス発行時の講習」であり、積極的に実施している機関が全体で 4 割弱、ある程度実施されている機関をあわせると 7 割強になる。同じ講習でも、「ソフトウェア利用方法の講習」は積極的に実施している機関は 2 割弱、「マルチメディア機器の利用方法の講習」は 1 割強とそれほど多くは実施されていないが、それでも、「ある程度実施している」機関を加えると、いずれも 5 割程度にはなる。また、「マルチメディア機器の利用相談」についても、積極的に実施している機関は 3 割に満たないが、ある程度実施している機関を加えると 7 割にのぼる。

ここから、こうした支援センターにおいては、支援センターといいつつも、そこではネットワークとコンピュータ室そのものの管理が主たる使命とされており、利用に対する支援はあくまでも「できる範囲」にとどまっているといえるだろう。これは、支援センターのスタッフの人数を考えれば、複雑化するネットワークやコンピュータなどの管理そのもので手一杯であり、空いた少ない時間でもってマルチメディア機器利用の相談にのったり、マルチメディア教材制作の支援を行っているという現状は容易に推察できる。支援センターそのものは多くの機関で

表 7-3. 支援センターの通常業務（「積極的に行っている」+「ある程度行っている」）（％）

	4 年制大学				短大	高専	総計
	国立	公立	私立	小計			
メールアドレス発行時の講習	52.7	80.0	74.3	69.9	74.5	74.3	71.5
コンピュータ室の開放・管理	96.3	100.0	95.8	96.1	96.2	94.3	96.0
ソフトウェア利用方法の講習	56.4	70.0	67.5	65.2	66.0	57.1	64.7
マルチメディア機器の利用方法の講習	41.8	50.0	47.6	46.5	48.1	40.0	46.3
データベース・サービス	34.5	10.0	33.5	32.8	28.3	14.3	30.0
ネットワークの管理	98.2	100.0	94.8	95.7	97.2	100.0	96.5
マルチメディア教材の制作	38.2	10.0	36.6	35.9	35.8	22.9	34.8
マルチメディア教材制作の支援	49.1	30.0	51.8	50.4	38.7	37.1	46.1
マルチメディア機器の利用相談	56.4	80.0	75.4	71.5	73.6	54.3	70.5

設置されるようになってはいるが、「支援」を積極的に行うだけの人員が確保されていないのが現状であろう。

それでは、教員がマルチメディア教材を自作しようとした場合には、どこに支援を求めればよいのだろうか。表7-4は、教員がマルチメディア教材を自作する場合に支援が行われているかどうかについて問うたものである。「よく行われている」に「ある程度行われている」割合を合計しても、いずれの機関、いずれの支援も半数に満たない。4年制大学では、私立大学が「学内組織（マルチメディアセンターなど）の組織的支援」や「部局内の担当教職員の支援」といったボランティアに頼らない形での支援が他に比べてよくなされている。また、「民間企業などへの外注」も15.1%と多くはないが、国立や公立よりはよく行われている。一方、それと同程度あるいはそれ以上にボランティア教員や学生に頼っているのが国立大学である。組織的支援は、26.4%でしかないが、ボランティア教員の支援が35.5%、ボランティア学生の支援が31.4%と高い。短大と高専は、ともに最もよく行われているのが「部局内の担当教職員の支援」であり、ついで、ボランティア教員の支援となる。学内組織というよりは、担当教員や担当ではないがネットワークやコンピュータに詳しい教員に負担が偏っている現状がみてとれよう。

表7-4. マルチメディア教材自作の支援（「よく行われている」+「ある程度行われている」）
（%）

	4年制大学				短大	高専
	小計	国立	公立	私立		
学内組織（マルチメディアセンターなど）の組織的支援	33.6	26.4	24.7	37.7	16.4	28.0
部局内の担当教職員の支援	36.9	34.3	29.9	39.0	35.3	44.0
ボランティア教員の支援	36.1	35.5	37.7	36.2	30.3	38.0
ボランティア学生の支援	26.0	31.4	18.2	24.7	10.2	20.0
民間企業などへの外注	13.9	12.0	10.4	15.1	10.2	6.0

以上のことから、委員会組織や支援センターなどがある程度はたちあがってはいるが、委員会組織は、マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメントといった実際の利用が議論の対象になる段階ではなく、また支援センターも、ネットワークの管理に手一杯であり、教員がマルチメディア教材を自作しようとした場合などに対応できるほどの人員が確保されているわけではないといった現状がみてとれよう。支援体制の形が整いつつある中で、その中身をどのように充実させていくかはまだまだこれからの課題であるといえよう。

（田口真奈）